

富士フイルムVETシステムズ広報誌「ベテビータ」

VETE VITA

01 [獣医師インタビュー] 地域の動物医療を支える ジェネラリスト

- 04 新サービス「VETELOOP」
- 05 診断推論をマスターする
- 07 プリセット画像処理機能のご紹介
- 08 New Release iViz air V/
細菌検査リニューアル
- 09 秋冬の健康診断のご案内
- 10 データで考える!健康診断のギモン/
学術情報発信
- 11 お知らせ/
連載 病理診断の現場から
～犬の甲状腺腫瘍～



地域の動物医療を支える ジェネラリスト



都市部からは離れた地域にあるものの、県内外から診療に訪れるオーナー様が後を絶たないおざき動物病院。同院は1999年の開業から現在までに、獣医師15名を含む54名のスタッフが在籍する規模に成長を遂げている。どのような方針でここまで拡大してきたのか、オーナー様に支持される動物病院とは。院長の尾崎英二先生に、動物医療に対する考え方、病院経営、スタッフ教育などについてお話をうかがった。

おざき動物病院
(奈良県葛城市)
導入機器・システム

- 動物用臨床化学分析装置「富士ドライケム NX700V」
- 動物用免疫反応測定装置「富士ドライケム IMMUNO AU10V」
- 動物用血液凝固分析装置「COAG2NV」
- 検査データ処理支援システム「MiniNet-NeoV」

オーナー様の要望に応える病院作りと一人ひとりが主役になれる職場作り

地域密着型のプライマリ・ケアで より良い動物医療の提供を

—おざき動物病院の特徴は

尾崎先生 オーナー様にどれだけ良い動物医療を提供できるか、どれだけ利用しやすい病院になれるか。そんな思いが根底にあるため、地域密着型のプライマリ・ケアを重んじて、できるだけ幅広い分野の動物医療を提供できるような体制を整えています。

そのため当院には、さまざまな専門分野を持つ獣医師や認定医が在籍しています。しかし私たちはあくまで、一次診療施設として動物医療を提供するジェネラリストと考えています。そのため、二次診療施設や高度医療の提供を目指してはいません。それでもそうした先生方がいることで、ノウハウの共有が可能になり、「平均点の高い診療」ができると考えています。

地域のニーズに応えること スタッフの個性を発信すること

—当初の事業計画と現在の規模について

尾崎先生 現在、常勤の獣医師13名、非常勤2名、動物看護師19名、トリマー9名、受付9名、クリーンスタッフ2名が在籍しています。開院当初はさまざまな要望に応えられる病院にしたいとは考えていましたが、現在のような規模になるとは思ってもいませんでした。必要に駆られて拡大してきたというのが実情です(笑)。

徐々に診療件数が増えていくと、一件一件に対する医療提供の時間がどうしても短くなります。そうなると人が欲しくなり、診察室や駐車場が足りないという物理的な問題も発生します。また、さまざまな症例を診るための設備を充実させる必要があります。獣医師としての技能を高めるために外に出て勉強もしたい…。地域のニーズに応えようと努めた結果、人も増え、設備も充実させていきました。

—集客はどのように

尾崎先生 開院当初から広告はほとんど出さず、オーナー様の口コミが大半です。そのため開院直後は、来院数ゼロの日こそなかったもの

おざき動物病院 院長
尾崎 英二 先生



病院スタッフが制作した「ふれあい通信」。



動物が快適に過ごせるよう工夫された院内。

の、集客については頭を悩ませました。

ただ当時から思っていたのは、広告やホームページなどを通じてオーナー様が誇大な情報に触れてしまうと、来院時の満足度低下に影響するのではないかとことでした。そのため、ありのままの姿を見せるように心がけてきました。

その一方で5年目くらいからは、オーナー様にさまざまな情報提供ができるように、10ページほどの冊子『ふれあい通信』を1か月に1回発行し、郵送していました。その後は制作ベースが変わったり、媒体がWebに移行したりしていますが、楽しみにしてくださるオーナー様も多くいらっしゃるの、現在も続けています。

内容は獣医師や動物看護師のプライベート、飼っている動物の紹介を中心に、病気に関する事柄、キャンペーン情報などです。スタッフの個性や強みなどをアピールすることで、親近感をもっていただけるようにしています。

運営方針を変えることになった 二つのターニングポイント

一病院運営における成功例・失敗例は

尾崎先生 病院の規模から成功例に挙げただけなのもありますが、正直、失敗の連続でした。

例えば、動物医療の質やオーナー様への配慮を過度に求めたことでスタッフが疲弊し、惜しい人材が辞めてしまったことがありました。しかし当時は私も若かったので、「どうしてついてこれないのか」くらいの感覚でした。

ところが開業から7、8年が経ち、獣医師や動物看護師などを含めて10名ほどの規模になってくると、自分の考えだけで物事を進めることが難しくなってきました。そうした時期に別の病院から新しい獣医師がやって来たことが、一つの転機になったんです。

その獣医師はなかなか以前の病院の習慣が抜けず、私の方針にはまらない人でした。そのため、意見がぶつかることもしばしば…。ところが、

その獣医師は、私に対応できないようなオーナー様をファンにしていってました。その様子を見てはっとしました。それぞれの個性を活かしていくほうが、医療の幅もオーナー様の裾野も広がると気付いたのです。それからはスタッフの声を積極的に取り入れて、物事を進めていくようになりました。

一現在につながるターニングポイントは

尾崎先生 現在の場所へ移転した2013年です。きっかけは駐車場の不足でしたが、その時考えていたのはオーナー様の利便性よりも、スタッフが長く働けるような環境を作るにはどうすればいいかということでした。そこで移転に合わせて、教育制度や福利厚生制度の充実などに力を注いできました。また、それまで行ってきた夜間診療もこのタイミングでやめました。

その時々で発生する課題に取り組んできた結果として今がありますが、やってきたことは本当に地道なこと。目の前のオーナー様に病院の良さを実感していただくことで、その方が誰かを呼んでくださる。その連鎖がずっと続いているだけなので、何か特別なことをしたという感覚はありません。

ただ言えるのであれば、以前のように私が中心で、他の獣医師が脇役になるような組織のままでは成長は難しかったと思います。ファンは獣医師につくので、一人ひとりが主役になれること、自らの考えに基づいてオーナー様に向き合えることが重要だと思います。

教育制度や福利厚生の充実が 人材確保と全体の底上げに

一人材確保の秘訣は

尾崎先生 私が若い頃は見て盗むという時代でしたが、今ではそれが通用しなくなってきています。そのため、給与、教育制度、福利厚生などにも目を配っていないと、人材の確保自体がうまくいかないのではと感じています。

当院ではSNSを使った情報発信やホームページの充実を図っていますが、これもオーナー様向けというよりは、就職を考える方たちに向けてという感覚が強くあります。

一教育で大事にしていることは

尾崎先生 個性を尊重することです。とはいえ新人の方はすぐに個性を出せないの、まずはスタッフ同士のコミュニケーションを重視しながら、OJTとOFF-JT*の両面で教育を行っています。獣医師も動物看護師もそれぞれ出身や専攻が違うため、画一的なものではなく、その人に合わせた指導を意識しています。

例えば「バディ制度」もその一つです。先輩がバディとなって月単位で目標を定め、一緒にクリアすることで仕事を学んでいく仕組みです。直属の先輩後輩で組むので、悩み事なども相談しやすいというメリットがあります。

さらに獣医師へは月に1回、大学の教授を招いて勉強会を開いています。1か月間にそれぞれが経験した症例を報告する「症例発表会」や、海外の論文を訳して発表する勉強会「ジャーナルクラブ」も行っています。

また、より専門的な経験が積めるように、大学病院や二次診療施設で学べる「研修医制度」も整えています。そこで技能を高めて当院に還元してもらうことで、全体の底上げにつながっています。

一愛玩動物看護師の国家資格化については

尾崎先生 スケジュールを立てて外部講師を招き、全員合格を目指して15回ほどのカリキュラムを組んでいます。こういった試験は、いかに「団体戦」に持っていきのかが重要だと思うからです。そのため当院では、日曜日の夜9時から1時間、オンラインの勉強会を開いています。分らないことはその場で解決してほしいという理由と、遅れる人を出したくないという考えから、リアルタイムの参加にこだわっています。

愛玩動物看護師が国家資格になると業務範囲が広がるため、獣医師の仕事が軽減されることが予想されます。それに加え動物看護師のプロ意識も高まると思うので、より自信を持って仕事ができるのではないのでしょうか。一方で経営面においては、資格に対する給与の変化などが発生すると考えられますし、それが診療料金に関わってくることもあり得ます。少なからず、業界全体に影響があるだろうと想像しています。

*OJT: On-The-Job Training OFF-JT: Off-The-Job Training

時代やニーズの変化に対応しながらも個性が光る自主経営を目指して



—福利厚生については

尾崎先生 例えば、これまで週休2日制でしたが、近年ではそれを週休2日半にし、今では週休3日にしました。完全週休3日制ではなく、3日の内、半日を診療に出ない自由時間にしています。体と心を休ませることは、オンとオフのメリハリがつけにくい獣医師にとって、それがどんな福利厚生よりも必要なと思いますし、この制度は、私ではなく、スタッフの獣医師が提案してくれたものなんです。

当院では年に2回のペースで、私を含めた全獣医師を集めて病院運営について話し合う機会を設けています。より働きやすい環境を作っていくためにも、一人ひとりに「自主経営」の意識を持ってもらいたいと考えているからです。そのため、その場で出た意見をきちんと実現させるように努めています。

健康診断の血液検査を院内で業務効率化のための仕組み

—健康診断の件数は

尾崎先生 「ワン・ニャンドック」を1年間で200件ほど実施しています。これは、血液検査、超音波検査、眼科検査などを含んだ内容で、半日お預かりして行うものです。

「ウェルネスパック」は地域性を考慮し、フィラリア検査に合わせ生化学検査と血球計算を実施しています。2022年の3月~5月中旬頃まで、1,700件ほどありました。

傾向として面白いのは、3月にフィラリア検査のDMを出したあと、いち早く来院されるオーナー様はウェルネスパックを利用される方が多いのですが、5月を越えてくるとその利用率が下がっていきます。また、フィラリアの予防薬の出方についても、3、4月はノミやダニなどの予防まで含まれたオールインワンのもので出やすく、後ろになるほどフィラリアだけのお薬に変わっていきます。

—健康診断を院内で実施している理由は

尾崎先生 血液検査実施から結果報告までのスピードを重視しているからです。異常値が出た場合でもその場でお伝えできるので、オーナー様も心配事を持ち帰らなくて良くなり、喜んでくださっています。

また、駐車場確保のため、健康診断にかかる来院数をできるだけ抑えたいという事情もあります。

—多くの検査をスムーズに行うためには

尾崎先生 効率を良くすることが大切なので、手順に慣れるまでは当然トレーニングを行いますし、検体の置き方などの決まり事を設けています。そのうえで、その日一日、検査だけを担当する当番制をとっています。そうすることで引き継ぎが不要になりますし、回数を重ねることで要領も良くなっていきます。

一連の流れを仕組み化することで作業が効率化され、検査結果が出ている状態で診察することができています。またそれが、オーナー様の待ち時間短縮にもつながっています。



多くの検査を効率良く行うために複数の試薬がワンパックになっているスクリーニングスライドを活用。



スタッフ一人ひとりが主役になれる自主経営を

—今後の展望は

尾崎先生 昨今ではこの業界でも、大規模病院が企業の傘下に入るなどの再編が進んでいます。私もここ最近、事業継承や次のステージについて考えを巡らせるようになりました。

たしかに大きな病院であれば集客がしやすいという面もあるかもしれませんが、おどぎ動物病院という個性を失わないためには、ここを育ててくれている獣医師一人ひとりが主役となって、自主経営していくことが大切です。

またスタッフが育つためにはポジションが必要になるので、私個人としても院長の代替わりなどを考えなければと思います。と同時に、今後、獣医師としてどのような仕事をしていくのか。これからの道筋を模索しています。

—富士フイルムグループに期待することは

尾崎先生 近年、動物医療が高度化していく流れを感じています。医療の向上は当然必要ですし、それを提供する場があることも重要です。しかしそれが当たり前になってしまうと、動物を飼うこと自体が贅沢なものになる恐れがありますし、高度医療をしてあげられないことに罪悪感を感じてしまうオーナー様が出てくるのではないかと危惧しています。

そこで富士フイルムさんには、動物医療が標準化していくような発信を期待しています。例えばある病気に対して、全国的にどういった検査をしているのかといったデータを集めて検査の標準を示していただけると、一次診療施設のジェネラリストとしては大変参考になります。医療技術を高めることや、検査技術の向上も重要ですが、そうした動物医療の標準化をお願いできればと思います。

Coming
Soon!

受託検査結果閲覧システム

VETELOOP

受託検査の結果をオンラインで閲覧いただけるサービス、
VETELOOP(ベテループ)をまもなくリリースいたします!
検査が終了し次第、検査結果報告書の到着を待つことなく、
すぐにお手持ちのPCやタブレット端末から
検査結果の閲覧・印刷が可能です。



健康診断結果

受付日: 2021/10/18 | カルテNo: 2912-8 | オーナー名: 富士 | ペット名: 太郎 | 年齢/性別/分類: 9歳6ヶ月オス犬 | 依頼施設: FFVS動物病院

検査項目: 尿検査, 血液検査, 便検査, 寄生虫検査, その他

検査結果

項目	結果	参考値	2020	2021	2022
TP 総蛋白	6.9 g/dL	5.0-8.5	6.1	5.9	6.1
ALB アルブミン	4.1 g/dL	3.5-5.5	3.2	3.2	3.4
A/G 白蛋白/ globulin 比	1.6	1.0-2.0	1.9	1.2	1.3
TBL 総ビリルビン	0.1 mg/dL	0.0-1.0	0.1	0.1	0.1
AST/ASOT AST/ASOT 比	17	10-25	29	24	33
ALT/GPT ALT/GPT 比	57	10-30	38	37	48
ALP ALP	19	10-30	22		
GGT γ-GTP	7	0-20	6	7	15
LIP 脂質	52	10-100	62	41	48
BUN 尿素窒素	14.5	7-20	26.1	14.6	21.9
CRE 肌酐	0.59	0.4-1.2	0.71	0.65	1.03
TCHO 総コレステロール	146	100-250	118	117	113
TC 中性脂肪	32	0-100	410	25	433
Na ナトリウム	137	130-150	137	140	138
K カリウム	4.3	3.5-5.5	4.3	4.7	4.3



健康診断報告書

検査項目: 尿検査, 血液検査, 便検査, 寄生虫検査, その他

検査結果

項目	結果	参考値	2020	2021	2022
TP 総蛋白	6.9 g/dL	5.0-8.5	6.1	5.9	6.1
ALB アルブミン	4.1 g/dL	3.5-5.5	3.2	3.2	3.4
A/G 白蛋白/ globulin 比	1.6	1.0-2.0	1.9	1.2	1.3
TBL 総ビリルビン	0.1 mg/dL	0.0-1.0	0.1	0.1	0.1
AST/ASOT AST/ASOT 比	17	10-25	29	24	33
ALT/GPT ALT/GPT 比	57	10-30	38	37	48
ALP ALP	19	10-30	22		
GGT γ-GTP	7	0-20	6	7	15
LIP 脂質	52	10-100	62	41	48
BUN 尿素窒素	14.5	7-20	26.1	14.6	21.9
CRE 肌酐	0.59	0.4-1.2	0.71	0.65	1.03
TCHO 総コレステロール	146	100-250	118	117	113
TC 中性脂肪	32	0-100	410	25	433
Na ナトリウム	137	130-150	137	140	138
K カリウム	4.3	3.5-5.5	4.3	4.7	4.3

報告書はPDFで出力

- 参考基準範囲を超えた値は色でお知らせ
- ルーチンと健診の結果の統合が可能
- トレンドグラフで経過の比較がしやすい

院内検査機器との連携や
オンラインでの検査依頼など、
機能の追加も現在開発中!



診断推論をマスターする

診断推論とは？

ここ数年、「診断推論」という単語を耳にする機会が増えました。雑誌の原稿やセミナー等でもよく取り上げられているように思います。

では、そもそも診断推論とは何でしょうか？診断学をテーマに、「できる」獣医師の診断の道筋について解説します。

執筆：獣医師、獣医学博士 玉本隆司



診断推論とは？

「症状から疾患を類推し、診断するまでの思考プロセス」、これを診断推論と呼んでいます。「診断学」と呼んでもいいかもしれません。何やらそれらしく書かれていますが、これって要は日常の診療行為そのものですよ。「何らかの症状を訴える患者さんが来院し、それに対して適切な検査を実施し、診断をつける」、これは獣医師であれば日頃当たり前に行っていることです。この当たり前を、現状の大学教育ではほとんど教えません。多くの獣医師は、卒業して右も左もわからない状態で就職し、先輩獣医師や院長に怒られながら少しずつ経験を積み、診断学を身に着けていったことでしょう。そして身に着けた経験はかけがえのないものですが、いくつかの危険をはらんでいるのも事実です。だからこそ、系統立った診断推論を理解することが求められています。

診断推論、2つのアプローチ

診断推論には大きく分けて2つのアプローチが存在します。ここではそれを「直観型」と「分析型」と呼ぶことにします。名づけると仰々しくなりますが、実は獣医師であれば大なり小なり実践していることを定義しなおしただけなのです。



直観型

直観型はパッと見た印象から診断をひらめくことですが、単なる思いつきや勘ではなく、確かな知識や経験に裏打ちされたものです。ある程度経験を積んだ獣医師が日常的に行っているのがこの方法でしょう。「脱水して毛並みの悪い老齢の猫を診察したら、とりあえず慢性腎臓病を疑う」、というのが直観型の典型的なパターンで、パターン認識型と呼ばれることもあります。メリットはとにかく早いということにつきます。それでいて、経験を積みれば積むほど精度は上がっていき、上質な経験を豊富に積んだ獣医師では驚くほどの精度で診断が可能になります。しかし、逆に言えば経験のない獣医師ではこの方法を用いることができません。また、経験の「質」も重要です。中途半端な経験や誤った経験は、ときにバイアスとなつてのしかかってきます。

例 猫、雑種、15歳齢、避妊雌



- 最近だんだん痩せてきた
- 毛並みが悪い
- 一昨日からご飯を食べなくなった

● 症例情報と疾患の
パターン分類

● 経験の蓄積

- 猫
- 高齢
- 毛並み
- 食欲

慢性腎臓病



生じやすいさまざまなバイアス

最初に想起された疾患への固執

- 根拠のない自信
- 考えを否定されたくない

先輩獣医師への盲信

- 先輩の言うことは絶対！
- 言う通りにする方が楽…

中途半端な経験

- 最近勉強した疾患を優先
- インパクトの強い症例に引きずられる

自分に都合の良い解釈

- 否定的な結果を軽視・無視
- 「これは非典型的なタイプだ」

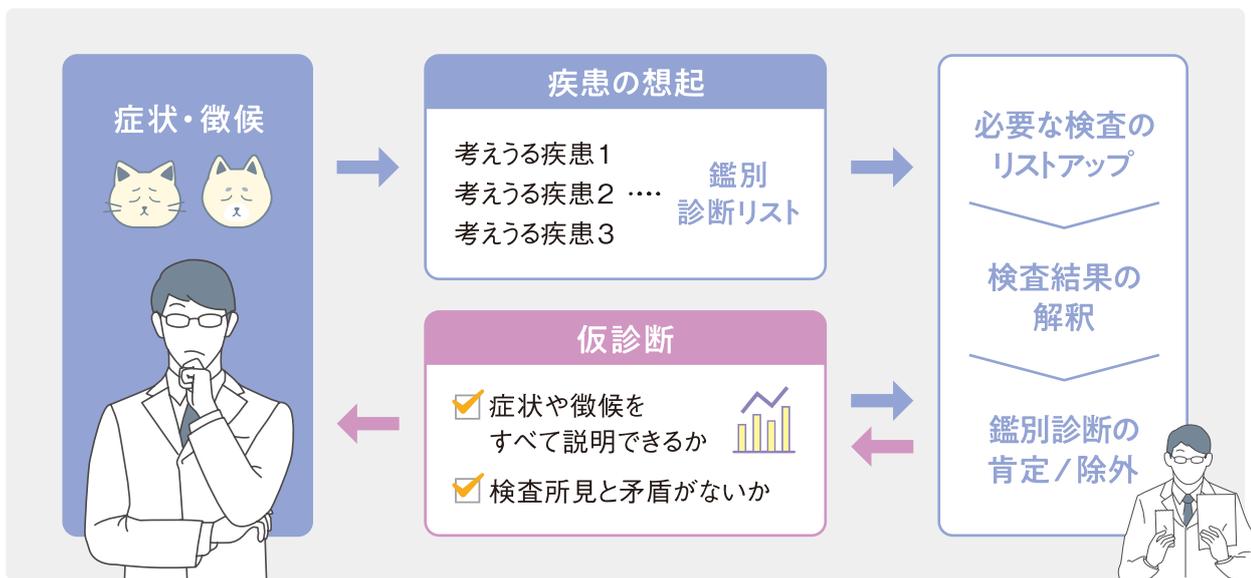
楽な方向への逃げ

- もしこの病気なら手術…入院…
- 面倒だから見なかったことにしよう

分析型

分析型は症状に応じた鑑別診断をリストアップし、それに対応する検査を進めていく方法です。検査結果から鑑別診断を肯定あるいは除外し、診断に近づけていきます。こちらも、直観で診断にたどり着けない場合には多くの獣医師が活用する方法でしょう。実際には鑑別診断リストの作り方や検査の選び方にコツはありますが、教科書等を確認しながらであれば知識や経験が不足していても実施できるため、経験に左右されづらいことが利点として挙げられます。また、複数の鑑別を考えるため、併存疾患を見落としづらいのも強みです。一方で、一つずつ確認するために時間がかかり、検査も多くなりがちです。

直観型とは異なり、分析型では考えるステップが何段階も存在します。特に重要なのが、ある診断名にいったんたどり着いた後です。それはあくまでも「仮診断」であって、そこから症状や経過、検査所見に立ち返って、矛盾がないか確認する作業が必要です。その診断名で説明できないものがあれば、それは診断のステップで何か勘違い等があって判断を誤ったか、別の疾患が介在しているかのいずれか、あるいは両方を考慮する必要があります。このステップが非常に重要で、これがあるから分析型の精度が担保されます。



ハイブリッド

特に新人獣医師が診断推論を学ぶ場合にはまず分析型をおすすめしますが、実際の診療に当たっては時間も手間もかかりすぎるのも事実です。そのため、理想的にはハイブリッドで実施してほしいと考えています。ベースはあくまでも分析型、ただし鑑別診断リストを作る際に、直観に基づいて可能性の高い、あるいは絶対に見逃してはいけない2、3個に絞り込みます。これによって、スピードを飛躍的に向上することが出来ます。その2、3個が外れたらどうするのかと言えば、次の2、3個に進めばいいだけです。それでも、最初から10個も20個も鑑別を考えるよりはずっと早く済みます。分析型の精度を直観型になるべく近いスピードで、それが理想の診断だと私は考えています。



※診断推論自体が定義されて日が浅く、明確な学問領域として定着していないために、王道に当たる教科書等が存在しません。コンセプトは概ね似通っているものの、著者ごとに単語や言い回しが異なります。したがって、この原稿の内容も、「筆者が自身の診療および教育の経験を経て身に着けた診断推論」に過ぎないことをご承知おきください。

V Station T

ペットクリニック向けデジタル画像診断システム



プリセット画像処理機能のご紹介

画像処理と多彩な機能で、正確・迅速な診断をサポート

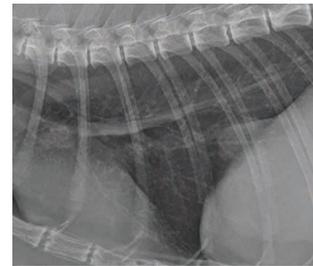
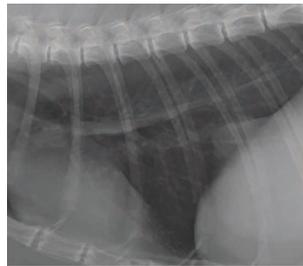
日常のX線画像の読影において「もう少しクッキリと画像が見えたら」「簡単に画像のコントラストを変更出来たら」と思うときはございませんか？V Station Tに搭載されているプリセット画像処理機能を活用することにより、画像の濃淡／コントラスト調整による画像調整だけではなく、末梢血管を中心に強調したり、骨を見易くする等、濃淡の調整だけでは作ることのできない画像を手軽で簡単に作成することができます。

〈活用例〉

状態をより詳しく把握したい…
肺野の血管をもう少し
しっかり確認したいな



操作例 | テンキー **2** ▶ 末梢血管強調



プリセット画像処理機能の使用方法

画像を表示し、10キーを押下するだけで、表示が切り替わるので、簡単操作。本機能を使用することにより、一枚の撮影画像であっても、診断目的に応じて画像処理を変更し、診断目的に合わせた画像をスピーディーに表示。また、既存の画像処理に加えて、お好みに合わせた画像処理を作成し、登録が可能なおことから読影から診断におけるワークフローがよりスムーズになります。

V Station Tのプリセット画像処理機能は日々の診療で広く活用しています。画像診断時には特に体厚の薄い小型犬など、画面全体のコントラストが少ない場合や、明るい/暗いと感じた際にプリセット画像処理機能を活用することで、より読影がしやすくなる場合があります。また、キーボードの数字キーを押すだけで画像にコントラストがつき、肺血管など、強調したい部分をスピーディーに分かりやすく表示できるため、当院では特にご家族さまへのご説明時に重宝しています。



監修：大阪府阪南市 まつおか動物病院 吉田 祐樹院長

プリセット画像処理機能をご利用いただけるシステム



V Station T



CALNEO Smart V



FCR PRIMA iT&V



FCR PRIMA V

高画質と機動力を手の中に

NEW

2022年4月に動物用超音波画像診断装置「iViz air V」を新発売いたしました。本製品は5.5インチのスマートフォン型本体と、ワイヤレスプローブで構成されているため、軽量・コンパクトで、携帯性に優れています。腹部等の深い部位の観察用の「コンベックスプローブ」、筋層や靭帯観察用の「リニアプローブ」をラインアップしております。院内だけでなく、往診等、動物医療分野におけるさまざまなシーンでの診断をサポートいたします。

iViz air V



製品概要を
CHECK!



細菌検査 リニューアルの お知らせ

富士フィルムVETシステムズの 細菌検査が生まれ変わります!

2022年
10月より
Renewal

POINT ① 動物医療に最適化した確かな検査技術

質量分析法による正確な菌種の同定と、MIC法による動物専用の感受性基準「CLSI VET 01S」に準拠した薬剤感受性試験で、より精度の高い検査を提供いたします。

POINT ② 推奨薬剤セットと分かりやすい価格設定

組織移行性を考慮した採取部位別推奨薬剤セットに ブラッシュアップ

動物医療において使用頻度が高く、適切な12薬剤を1セットに。

検出菌の菌数に関わらず検査価格は一律に

検査依頼時点で価格が確定するため、ご家族様への治療費用のご説明の際も安心です。

こんなお悩みありませんか?

- どの薬剤を選べば良いかわからない
- 感受性はあるはずなのに、その通りに治療を行っても効きが悪い
- 検査依頼時に費用がわからない

悩まず
検査が
可能です!

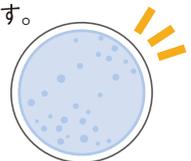
POINT ③ スピーディーな結果報告

従来より平均2日短縮!

最短5日で培養同定～薬剤感受性試験が完了。報告までの時間を最短にし、より良い治療選択が可能です。

本検査の
監修者

鳥取大学 農学部 共同獣医学科 臨床獣医学講座 准教授 原田 和記 先生
アジア獣医師皮膚科専門医 犬と猫の皮膚科 代表 村山 信雄 先生
東京大学 大学院 農学生命科学研究科付属動物医療センター 特任教授 茂木 朋貴 先生



秋冬の健康診断のご案内

健康診断が気づきへの一步へ

2021年9月より犬・猫に加えウサギの参考基準範囲を新設いたしました。Webサイトでは健康診断専用のページを新設し、ご家族様にお渡しできるリーフレットや健康診断報告書の読み方などをご用意しております。右記QRコードから閲覧・ダウンロードが可能です。疾患の啓発やご家族様への検査結果報告のサポート資料としてご利用ください。

Webサイト掲載情報のご案内



犬・猫の
健康診断



ウサギの
健康診断

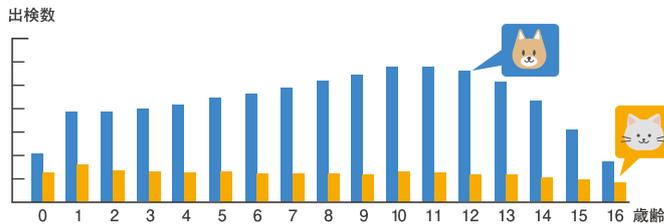


犬・猫・ウサギの
ご家族さま向け資料

弊社外注検査にて実施された健康診断に関するデータ

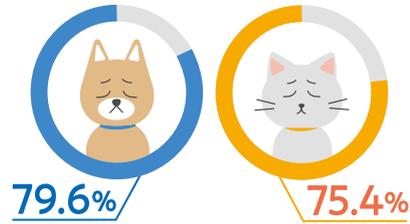
年齢分布

犬の健康診断において10～12歳齢で多くご出検があり、猫の健康診断においては若齢層から高齢層まで有意差なくご出検がございました。^{※1}



異常値報告(全年齢対象)

犬は79.6%、猫では75.4%で参考基準範囲外の結果が報告されています。^{※2}



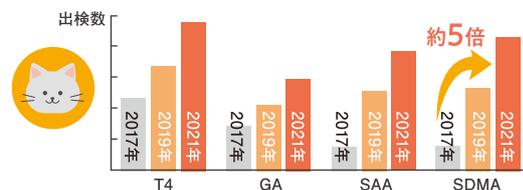
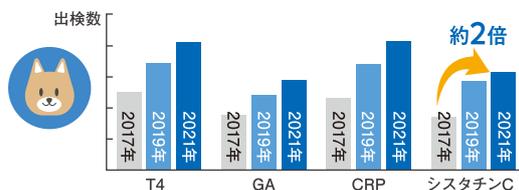
犬においては、シニア層(7歳齢以上)を中心に健康診断をご利用いただいております。年々飼育頭数が増加している猫^{※3}においてもご家族様の“気づきへの一步”となるよう、定期的な健康診断の実施をお勧めいたします。

健康診断でのオプションについて

弊社へご出検いただく健康診断の件数が年々増え、オプション追加率も増加しています。オプションでのご出検は通常のご依頼よりお得にご利用いただけます。

▶健康診断におけるオプション追加率の推移

健康診断のご出検数は年々増加しており、健診オプション追加を選択される件数は4年前と比較して約2倍以上です。^{※4}



▶シニア層(7歳齢以上)におすすめの「シニアセット」

疾患の増えるシニア層(7歳齢以上)。早期発見・早期治療に繋がるよう、健康診断限定のオプション項目をご用意しています。

シニアセット [犬]	小・中型犬 ^{※5} シニアセット	シニアセット [猫]
セット項目 ● T4 ● CRP ● GA	セット項目 ● シスタチンC ● T4 ● CRP ● GA	セット項目 ● T4 ● SAA ● GA

オプション利用の おすすめ

一度の採血で複数の検査ができることから、年齢や疾患・既往歴に合わせて、検査内容の変更ができるよう、弊社ではオプション項目の充実に努めております。

^{※1} 2021年2月～2022年1月に当社受託検査へ出検された健康診断結果より ^{※2} 2021年9月～2022年1月に当社受託検査へ出検された健康診断結果で1つでも参考基準範囲外となった検体の割合より
^{※3} 一般社団法人 ペットフード協会2021年(令和3年)全国犬猫飼育実態調査 結果 ^{※4} 2017年4月～2022年3月間に実施された当社受託検査の健康診断出検数より ^{※5} 20.0kg未満

データで考える!

健康診断のギモン

Q クレアチニン(Cre) vs SDMA・シスタチンC CKDの早期発見には、結局どちらが良いの?

A どちらか1項目しか上昇がみられないことも。組み合わせた検査がおすすめです。

加齢に伴い腎機能は低下しますが、必ずしもSDMAがCreより早く上昇するわけではありません。SDMAの上昇がみられず、Creのみ上昇している個体も見られることより、早期発見には血液検査をはじめ、尿検査、画像検査をそれぞれ組み合わせることが望まれます。

〈健康診断を受診した犬・猫における年齢別のCre、シスタチン(C) (犬)、SDMA (猫) 異常値率〉



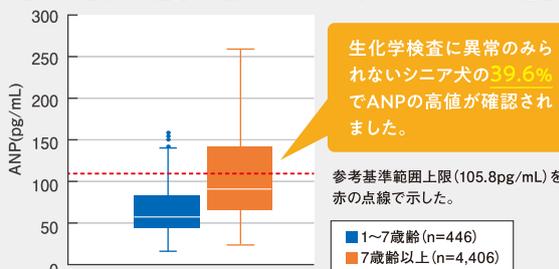
Q 健康診断で心臓バイオマーカー測定は必要?

一般的な生化学検査のみでは、心臓の

A 異常はわかりません。特にシニアでは、積極的な測定を推奨いたします。

「生化学検査で異常がみられなければ安心」でしょうか。心疾患の早期診断に重要な画像検査に繋げるためにも、健康診断における心臓バイオマーカーの測定をご検討ください。

〈健康診断を受診し、生化学検査に異常のみられない犬におけるANP測定値〉



学術情報
発信

富士フイルムVETシステムズ Webサイト 新規掲載情報・ラインアップ

学術資料

NEW ウサギにおけるSAA測定意義

監修:あかしや動物病院 院長 大橋 英二 先生

NEW FGF23の測定を用いた症例紹介 No.6

症例提供 / 監修:もたい動物病院 院長 罇 正治 先生

NEW フェリチン(犬)~鉄欠乏早期に減少する「貯蔵鉄濃度」の評価に~

監修:北里大学 獣医学部 獣医学科 獣医生生化学研究室 教授 折野 宏一 先生

講演動画



NEW 皮膚病理を最大限活用する方法
~用途と採材方法のコツ~

村山 信雄 先生
アジア獣医皮膚科専門医 犬と猫の皮膚科 代表



NEW IGF-1ミニレクチャー
猫の末端肥大症の最新知見

森 昭博 先生
日本獣医生命科学大学 准教授

※本広報誌に掲載されている先生方のご所属と役職は当該資料の制作当時のものとなります。

こちらから
ご覧ください!

富士フイルム 動物医療ライブラリ

<https://www.fujifilm.com/jp/ja/healthcare/lib/vet>

検索



VET Information

請求書のメール通知・ダウンロードサービスのご案内

富士フィルムVETシステムズでは情報のデジタル化やペーパーレス化に取り組んでおります。請求書のメール通知・ダウンロードサービスへお申込みいただくことで、請求書発行後の即時受け取りが可能です(紙の請求書の郵送は停止となります)。本サービスをご希望のお客様は、右記QRコードより専用フォームへ必要情報の記入をお願いいたします。

お申し込みは
こちらから▼



富士フィルムVETシステムズ 請求書電子化のお申込み

検索

富士ドライケム IMMUNO AU カートリッジのパッケージデザインが新しくなりました

富士ドライケム IMMUNO AU カートリッジの薬事情報が動物用体外診断用医薬品へ変更になることに伴い、パッケージデザイン等が変更となりました。なお、製品性能に変更はございません。

対象製品 v-T4・vc-TSH・v-COR・v-TBA・v-PRG・vf-SAA

変更内容 薬事番号、パッケージデザインの変更、添付文書の同梱中止*

変更時期 順次切り替え

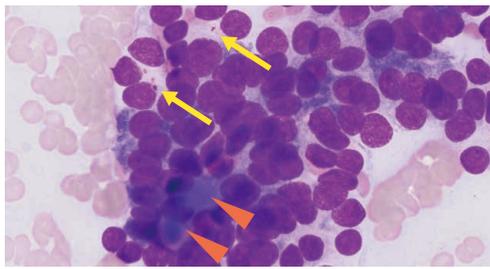
*添付文書につきましては、動物医薬品検査所ウェブサイトに掲載しております。
<https://www.maff.go.jp/nval/>

病理診断の
現場から

社内診断医の あれ!?!この症例 ~犬の甲状腺腫瘍~

経過

犬、トイプードル、16歳、避妊雌。左頸部の領域の腫瘍病変を主訴に来院。腫瘍は頸部腹側の浅頸リンパ節の近くに存在する弾力のある境界明瞭な皮下の腫瘍で、サイズは5×4cm。



診断: 甲状腺腫瘍を最も強く疑う Most compatible with thyroid tumor

解説

裸核性の上皮細胞が多数みられることから内分泌腫瘍が考えられ、さらに採材された部位と細胞形態から甲状腺腫瘍が最も疑われます。上皮細胞が時折円形に配列し、内部にはサイログロブリンを含む赤みを帯びたコロイド(赤矢頭)が貯留しています。また、細胞質の内部には甲状腺ホルモンの前駆物質に由来するとされるタイロシン顆粒(黄色矢印)もみられます。

イヌの甲状腺腫瘍は良性のものは稀であり、臨床的に触診できるサイズであれば90%以上が悪性の甲状腺腫瘍です。この腫瘍は悪性挙動をとるにも関わらず、細胞診ではほとんど異型性がないことも珍しくありません。濾胞上皮細胞(甲状腺ホルモンを産生する細胞)、C細胞(カルシトニンを産生する細胞)のいずれも腫瘍化することがあり、今回のケースは前者の腫瘍が疑われます。

富士フィルムVETシステムズ株式会社 診断医(臨床病理) 島田優一

製造販売業者: 富士フィルム株式会社

●富士ドライケム NX700V 販売名:富士ドライケム NX700iV 届出番号:29動薬第3089号 ●富士ドライケム IMMUNO AU10V 販売名:富士ドライケム IMMUNO AU10V 届出番号:23動薬第1450号-2 ●スクリーニング7 販売名:富士ドライケムスライド スクリーニング7 届出番号:2動薬第1649号 ●スクリーニング15 販売名:富士ドライケムスライド スクリーニング15 届出番号:2動薬第1651号 ●vf-SAA 販売名:富士ドライケム IMMUNO AU カートリッジ vf-SAA 承認番号:3動薬第3081号 ●vc-TSH 販売名:富士ドライケム IMMUNO AU カートリッジ vc-TSH 承認番号:3動薬第3078号 ●v-T4 販売名:富士ドライケム IMMUNO AU カートリッジ v-T4 届出番号:29動薬第2543号 ●v-COR 販売名:富士ドライケム IMMUNO AU カートリッジ v-COR 承認番号:3動薬第3080号 ●v-TBA 販売名:富士ドライケム IMMUNO AU カートリッジ v-TBA 承認番号:3動薬第3079号 ●v-PRG 販売名:富士ドライケム IMMUNO AU カートリッジ v-PRG ●FCR PRIMA V 販売名:富士コンピューテッドラジオグラフィ CR-IR391V型 届出番号:22動薬第3815号 ●FCR PRIMA T2 V 販売名:富士コンピューテッドラジオグラフィ CR-IR392V型 届出番号:28動薬第706号 ●FUJIFILM DR CALNEO Smart V 販売名:デジタルラジオグラフィ DR-4D 1200V 届出番号:28動薬第468号 ●V Station T/V Station T モバイルクライアント 販売名:富士コンピューテッドラジオグラフィ CR-IR 392V型の付属品の画像処理ソフトウェア CR-IR 392VCL 届出番号:28動薬第706号 ●動物用超音波画像診断装置 iViz air V 販売名:FUW Vシリーズ 届出番号:3動薬第3032号

製造販売業者: 株式会社エイアンドティー

●COAG2NV 販売名:血液凝固分析装置COAG2NV 承認番号:22動薬第5053号

FUJIFILM

お問い合わせは下記へご連絡ください。

富士フィルムVETシステムズ株式会社(営業所)

北海道: 011-826-6790 埼玉: 048-714-2600 神奈川: 0466-54-7617 大阪支店神戸出張所: 078-857-8711 沖縄: 098-989-7727
東北: 042-444-8443 千葉: 047-401-1226 東海: 052-709-6170 中・四国: 072-652-6005
北関東: 048-577-5728 東京支店: 042-444-3180 大阪支店: 072-652-6005 九州: 092-261-7842